

よりみち大学「心の駅」交流拠点づくりの調査・研究

特定非営利活動法人 おぢや元気プロジェクト

■ 背景と目的

現存する里山地域の資源を生かし、都市に住む人たちとの交流を図り、身の丈に合った地域づくり・地域の活性化を目指し「心の駅」交流拠点づくりに取り組み、交流が広がることにより里山地域の人たちが、いつまでも元気に生活を継続していくことを目的として事業を実施した。

実施集落・・・長岡市川口木沢地区

平成 16 年 56 世帯 → 平成 23 年 35 世帯

(人口は減少の一途を辿っている)

里山の人達にとって自分たちを知ってもらう事が地域活性化の第一歩



■ 事業の概要

- ・半常設の「心の駅」を里山の景観の美しい場所に季節限定で設営する。
- ・訪れる人に対して「心の駅」の有効性の調査を行う。
- ・里山の集落に住む人々に「心の駅」の有効性の調査を行う。

「心の駅」とは・・・誰もが立ち寄りやすい垣根のない交流場。通りがかった誰もが利用できる。ちょっと一休みできる休み処。自宅にこもりがちなお年寄りも気候の良い時は外に出て日向ぼっこや偶然い合わせた人との会話を楽しむ空間。

1. 調査内容

過疎化が進んだ里山の集落は、「限界集落」「消滅集落」という言葉に脅かされている。少子高齢化が著しく進んだ地域に、街の人たちが訪れることで、人と人との交流、経済の活性化など、里山地域の人たちに元気をもたらしたい。

● 調査の期間

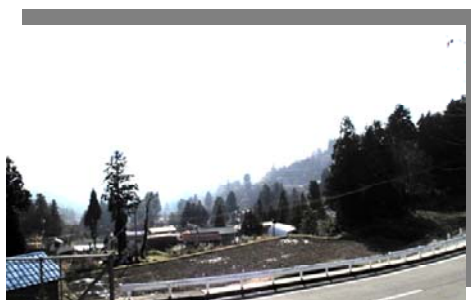
平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

● 実施スケジュール

4 月中旬から 5 月中旬設置準備

5 月中旬から 10 月末まで出展・調査

10 月末から調査の集計と研究



● 調査の範囲

長岡市木沢地区：当地区は、新潟県中越地震（平成 16 年. 10. 23 発災）中心被災地域で、生活基盤は壊滅的な状態に陥った木沢地区。



2. 実施内容

● 実施事業の内容とその特徴

当法人では、中越沖地震時に開発した移動式「心の駅」を被災地、東京、小千谷市、魚沼市、長岡市、新潟市など50回以上開設し、調査を試みてきた。その結果、地域住民のコミュニケーションの場となり、あるときは観光で訪れた人たちの憩いの場となり、子どもからお年寄りまで大勢の方が気軽に利用できることがわかった。その際、一杯のお茶を介して、お互いに会話することで、普段話すことのない人との交流やネットワーク作りが容易にできることが証明された。この「心の駅」を季節限定で里山に開設、人々の手軽な交流の場所が人々にもたらす効果を調査研究したい。

◎心の駅の定義

「心の駅」の条件＝「ひと（心の駅の人）」＋「場所（空間）」＋「飲み物・食」である。

上記の式が「心の駅」

● 運営体制と役割分担

活動主体：NPO 法人おぢや元気プロジェクト

提案・コーディネート・マネジメント

協力団体：木沢区

管理（清掃、御茶のみ場開設、その他）

学識者：丸山暉彦氏（長岡技術科学大学教授）

管理、運営アドバイス



● 実施結果

本調査についての検討

運営主体であるNPO 法人おぢや元気プロジェクトが企画案・調査案と設計書を作り、木沢区民と話し合いの場を設けて、本調査についての検討を行った。

検討内容①：4月17日 現地測量

検討内容②：4月20日 「心の駅」の運営方法について検討。



● 施工事業の実施

施工内容①：4月28日 車庫への階段を作る

施工内容②：5月3日 シーラー・ペンキ塗り

施工内容③：5月25日 手すりのニス塗布作業

施工内容④：5月30日 ペンキ塗り作業終了

施工内容⑤：6月1日 材木運び

施工内容⑥：6月2日 心の駅棟上げ

施工内容⑦：6月6日 屋根の竹完成

施工内容⑧：6月8日 心の駅完成



● 施工についての注意事項と問題点

1 「心の駅」の構造上の「安全性」

2 「心の駅」に対して、住民の協力や理解を得られるように



心がけた。

3 「心の駅」がまわりの自然環境と調和することを大切にした。

4 初めての試みなので予算と費用が見合うかどうか？という問題があった。

5 季節限定なので、地域の方々の負担にならないように保管の仕方を模索する。

● アンケート調査 結果とヒアリング調査

現地調査①： 6月9日 内閣府の地域活性化推進室 参事官山田総一郎氏、参事官補佐小浪尊宏氏、研修員渡辺真守氏らの視察を合わせて現地 調査を行う

現地調査②： 6月22日 心の駅で国道 71号線の交通量を調べながら、地域の資源、宝さがしの調査を行う。

現地調査③： 7月9日 木沢地区でヒアリング調査

現地調査④： 9月28日 木沢地区でヒアリング調査



● アンケートの概要

◎実施日 8月9日～10月5日

◎木沢「心の駅」にアンケート用紙を設置・回収

◎回答数 26



● アンケート結果

利用者の年代は子供から年配者まで多様であった。首都圏や関西などから木沢を訪れた人から利用いただき、好評であった。

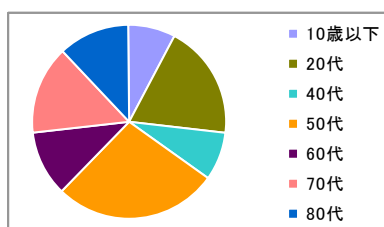
偶然歩いていたらあったので利用した方ややまぼうしの利用者

も多く利用されたようだ。一方県内の利用者が少なかったのはPR不足によるのではないかと推察される。環境としては、立地条件と手づくり感、開放感などの点から居心地の良さが高く評価された。また木沢の方が来客を案内して使うという形はできあがっているようである。

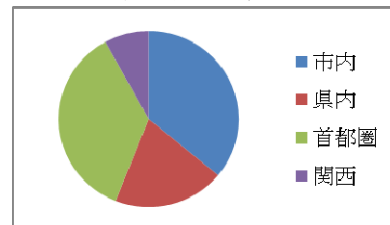
「心の駅」のような場所で、他地域や違う世代の人とも交流したいという意見が多く出され、このように拓かれた場所の有効性が実証された。

●利用者アンケート

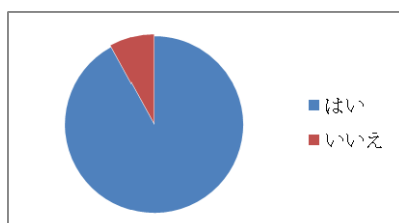
利用者の年代



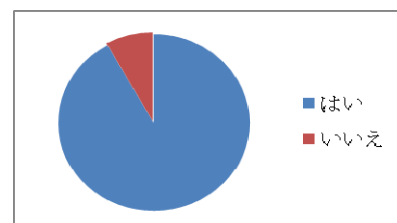
利用者の地域



年代や職業の違う人と交流を持ちたいですか？



もう一度「心の駅」を訪れたいと思いますか？



《アンケート自由記載欄及びメッセージBOX 旅人日記より》

- 川口運動公園に滞在しているものです。朝の散歩に立ち寄りました。ただ登ってきたら、ここに着きました。ホッとひと息、とても心が休まりました。また、今度は主人と来ます。
- のぼらせてもらいました。少し休みました。ながめがよかったです。
- 遊ばせてもらいました。キレイでした。
- 星野さんに会いに来ました。
- 夏の木沢も野菜もおいしいし、風も気持ちいい。みんながのんびりしていて、とても楽しいです。
- 木沢の人は心が温かいです。しかも人々がみんな仲がいいです。うらやましいです元気になりました。ありがとう木沢。
- 日差しは強いのに、ひさしのおかげで風がさわやかで心地よいです、また来ます。
- 地震からの復興があらゆるところに感じられて、元気をもらいました。特に人と人との交流がこの地を元気にしていると思います。これを日本中に広めていけることを期待しています。
- 10年前に比べて、家が少なくなっぴっくりしました。ガンバッテ 木沢さんへ。
- 木沢を散歩がてら立ち寄ってみました、のどかな木沢が大好き
- そのうち、また来ます。澄み渡った青空とはるかに浮かぶ越後三山が悩みを吸収やる気と希望を与えてくれました。



◎まとめ（利用者）

木沢を訪れた人の立ち寄りスポットとなり、滞在時間の増加につながったようです。誰にでも気軽に立ち寄れる場として「心の駅」は有効であった。さらに来年度以降は、地元住民と多様な来訪者との交流が図れような仕組みをつくることが期待される。都会でストレスを抱えた人々が、日常から離れて癒され、リフレッシュされる効果もきたいできるとがわかった。

《地域住民よりヒアリング》

- 天気がいい日は、土日に関わりなく、人が上がっていました。 「心の駅」が来年もあるといいなと思います。
- 孫と一緒に何度も行きました。眺めがよくて気持ちがいいのか、とても気に入ったようです。体験交流センター「山ぼうし」のお客さんは、みんな上がっていましたよ。地域の男の人たちは、よく夕涼みをしていましたよ。これから



は女の人も徐々使うようになっていくような気がします。

- 昼間に上がったら、意外に涼しくて、居心地がよくてびっくり しました。木沢には、カメラマンがいっぱい訪れますが、休むところがなかったので「心の駅」はとても良い考えだと思います。
- 山の中にいると自分のことしかわからない。「心の駅」で交流して、いろいろな人の話を聞いてみたい。
- 友だちとお茶のみをするのに上がりました。
- 家から歩いて出かけて、人と人が交流する場になり、とてもよい試みだと思う。地震後いろいろな地域の人との交流ができた。助け合いの輪が広がるのも、人と人の交流があるからこそだと思います。



◎まとめ（集落の方々）

- 木沢の方たちの中では、お互いが行き来をして、お茶のみをするという習慣は続いている。「心の駅」に関しては、男性の方がいち早く、その居心地の良さに気づき、「ビール会」や「夕涼み会」の場として頻繁に活用されたようだった。女性は、登ると「気持ちいい」と感じ、「だれかの家でのお茶のみ」のような気遣いもいらぬという利点にも着目して、来年はもっと活用したいという様子であった。
- 木沢が風光明媚な場所であるにも関わらず、訪れた人が気軽に景色を眺めて休息できる場所が今までなく、今回「心の駅」ができたことで、そうした役割を果たしたことを地域の人たちは喜んでいた。
- また、アイデアの斬新さ、外部の人だからこそ気づいた、新しい木沢の宝物として驚きとともに感謝をされた。11月の撤収の際には、地域から多くの人たちが駆けつけてくれた。その後の反省会では、今回の事業と調査に対して感謝の意を表していた。



3. 達成状況と今後の課題

《 今の時代における「心の駅」の必然性 》

「心の駅」は、直ぐには経済に結びつかない。良いことの連鎖を生んでいく場所である。

「心の駅」は自然な形でコミュニケーションがとれる空間づくりを目指している。「ちょっとお茶でも飲んでいきませんか」から始まる人と人のコミュニケーション。多世代や様々な地域の人交流する場所である。人が出会い、交流することで生まれる大切なものがある。「何気ない会話をしたことで、元気が出てきた」「子どもの頃にお世話になったから、大人になったら、自分も誰かの役立つ人になろう」。経済は、お金が循環していくけれど、「心の駅」は良いことの連鎖を生み、やがては、経済活動を支える人を育てたり、経済活動に元気に参加できるように、心の栄養をそっと配る場所である。間接的にあるいは、長いスパンの中で、経済活動に働きかけていく。「心の駅」は、それ自体が経済活動をしていく場所ではないからこそ、「新たな公共」として、あるいは「心ある人たち」の支えによって、「無縁社会」と呼ばれる時代に生きている私たち自身が、育てていかなければならない場所である。

《 木沢における季節限定「心の駅」について 》

季節限定という形で、手づくりの交流の場を作り上げたので、製作過程では、安全面や屋外の設置を考慮して、自然の気象状況などにも耐えうる構造で仕上がった。その結果、突風や大雨の際にも被害にあうことなく、管理維持が出来た。今後の継続に関しては、このような安全面等での万全の配慮が望まれる。また、地域の方々が思った以上に製作段階から参加して下さり、「心の駅」の誕生を心から喜んで下さった。花壇を寄付して下さったり、毎日水やりをして下さる方など、進んで運営に携わっていただき、とても感謝をしている。日々の運営に関しては、地域の方たちの協力は欠かせない。見晴らしの良い屋上部に設置されたため、車で通り過ぎる人への、存在を知らせるために、旗などを有効活用し、看板なども作成したため、予算がオーバーとなってしまった。ドライブマップや川口のHPに記載するなど足を留めてもらう工夫が必要である。

今年度は、交流体験施設も新設されて、グリーンツーリズムや防災ツーリズムの拠点として、これから注目されるであろう木沢地区は、国道17号から車で10分、サンローラ川口（川口温泉）から車で5分というアクセスの良さにも関わらず、なかなか足を運んでいただけていないという状況がある。越後三山の眺めも素晴らしく、日本一美しい里山を目指す木沢の集落へは、都会の人や近隣の人たちの心のオアシスとして、いろいろな方々から訪れてほしいと願っている。

そのためには、新しいドライブコースとして「木沢街道」がもっと周知されて、人々が行き交い、集落到立ち寄り、気軽におしゃべりをしたりをして、地域の活性化につながることを望んでいる。

木沢には、おいしい野菜やお米、特産のキムチや「木沢焼」の焼き物があり、春には山菜、夏にはキュウリやとうもろこし、秋にはキノコ、冬にはうさぎ汁、また手打ちのそばやこしの強いおもちなど田舎の「ごちそう」がいっぱいです。

今後も課題としては、サンローラ川口（川口温泉）や川口運動公園の来訪者を木沢集落へ誘導する仕組みを構築することが最優先の課題である。R71「木沢街道」のドライブルートを木沢地区と一つのストーリーや、一体化した観光スポットとして打ち出していきたいと考えている。

アピールや発信の仕方で、さらに経済効果や地域の元気を生みだすことが期待される。

新年度は4月に設営することが決まっている。

本当の交流拠点としての効果はこれからである。

